

学校における体罰に関する研究

～攻撃性の観点から～

概要

本研究は、学校における体罰という事象を人間の攻撃性の観点から考察することを通して、体罰の予防・防止に向けて効果的な方策を検討することを目的とした。人間の攻撃性に関する文献の講読および議論を行った結果、攻撃性が必ずしも否定的なものではなく、自己防衛や建設的な力としても機能し得ることなどが示された。また、欲求5段階説（Maslow, 1943）など、人間現象に関する様々な理論や観点から攻撃性を捉えることにより、人間の攻撃性や体罰に対する多角的な理解が可能となることが示唆された。

（キーワード）体罰、攻撃性、関係性、心的エネルギー、愛着、防衛機制、文化的視点、包括的・多角的理解

研究方法

- ①人間の攻撃性を取り上げている文献の講読
- ②体罰や攻撃性についての議論

②ディスカッション

攻撃性とは…

- ・「発酵と腐敗のような関係」
- ・「人を変えたい」と思っがかかわること自体が攻撃性
- ・自傷行為（自己刺激行動）も含まれる？

いじめといじりの違い…

- ・いじめといじりの線引きの難しさ
- ・教員が生徒をいじることの影響の大きさ
- ・遅れて影響が現れるのではないかといった遅延性など

攻撃性

制御可能

スポーツ
自分を守る行動
悪意・意図的な攻撃

制御不可能

ホメオスタシス
本能的な行動

体罰が容認される雰囲気、文化・価値観も影響？

研究結果

①文献講読

「なぜ人は攻撃するのか
—攻撃性と愛着スタイル及び防衛機制との関連—
岡田・桂田（2013）」

愛着スタイルと攻撃性・防衛機制との間に関連があることが示され、愛着スタイルが不安定な人ほど攻撃性が高く、未熟な防衛機制を使用する傾向があることが明らかにされている。攻撃性は自己防衛の一形態として機能し得る可能性があり、攻撃行動は自己防衛手段として使用される可能性がある。

「攻撃性に関する先行研究の概観」
足立（2003）

攻撃性は人が有する「心のエネルギー」と捉えることが可能である。その心のエネルギーがどのように育ち、どのように機能するかという点は、人間をどのような存在と捉えるか（人間の独自性をどこに求めるか）によって変わってくる。攻撃性は必ずしも破壊的・機能障害的な力とは限らず、建設的・能動的な力にもなり得る。つまり、攻撃性の多義的な側面を理解し、より包括的な人間理解をめざすことが重要となる。

まとめ

攻撃性に関する過去の研究知見から、攻撃性は否定的な側面と肯定的な側面を有する多義的な概念である（足立, 2003）ことが再確認された。また、攻撃性は自己防衛の一形態としても機能し得る可能性がある（岡田他, 2013）ことも明らかとなった。それらを踏まえた上で、体罰あるいは攻撃性について議論するなかで、それぞれが思い浮かべる攻撃性という概念の多様性が明らかになるとともに相互理解が促進され、ある程度の共通認識がもてるようになり、学校における体罰という事象を捉える端緒が得られた。例えば、Maslow（1943）の欲求5段階説の観点から人間の攻撃性を捉えてみると、ある特定の欲求が満たされていない状態は、人間に意欲・努力行動を喚起する可能性がある一方で、自己や他者に対する攻撃行動を生起させるかもしれないことが理解される。つまり、それぞれの段階の欲求はそれに対応する攻撃性に昇華され、それは時にポジティブな行動となり、時にネガティブな行動となって発現するであろう。このように、人間現象に関する様々な理論や観点から攻撃性を捉えることにより、人間の攻撃性や体罰に対する多角的な理解が可能となることが示唆された。

展望

今後はより多角的な視点から教員における攻撃性および学校における体罰という事象を捉え、体罰の予防・防止に向けた方策を検討していく。具体的には、体罰に関して本校でこれまで蓄積してきたデータを多角的に分析するとともに、教員を対象として体罰の予防・防止に資する質問紙調査を作成・実施し、最終的にはその結果から具体的な体罰予防・防止の方策を提言する予定である。